

みんなでつくる、集落さんぽマップの 楽しみ方

この芸術祭の舞台は、作品だけではなく、
茶畑の風景、木々の音、川の気配、集落の小道や暮らしの気配。
作品をきっかけに、春の集落を歩いてみると、きっとそれぞれに「気づき」や
「お気に入りの景色」が見つかるはずです。

このマップは、そんな発見を、みんなで持ち寄ってつくるマップ。
アートと一緒に、歩く楽しさや、集落の魅力を、ぜひ共有してください。

1

歩く・アートを楽しむ
歩いて、出会う。

作品を目印に、集落をゆっくり
歩いてみましょう。
近道せず、寄り道しながら
歩くのがおすすめです。

2

発見する
**「あ、いいな」を
見つける。**

作品のまわりだけでなく、
景色や動物、植物、人々の様子など、
気になったことを大切に
下の空欄にメモしよう！

3

みんなでシェア
**見つけたら、
共有しよう。**

■ 芸術祭インフォメーションセンター
[Atelier & Guest house ヌクリハウス]
に設置の大きなマップに、付箋やペンで
自由に書き込んでください
(文字でも、イラストも大歓迎！)
【例】A: 気持ちのいい小道があった
B: ここからの茶畑の眺めが最高！

■ Googleフォームからも参加できます
スマートフォンでQRコードを
読み取って、気づいたこと・
場所・ひとこと感想を教えて
ください。



集計したデータは会期後半にマップ追記して公開します！

メモ欄：「これ、好きかも」と思ったら、忘れないようにメモ。場所も覚えておいてね！

7 天野邸 (つづき)



村上慧『移住を生活する in 島田』(2025)

家とは何か。住むとは何か。という問いをもとにしたアート
プロジェクト。川根本町千頭～島田市までを7日間かけて
徒歩で移動した村上慧の「家」の記録映像。



越智良江『マイ・タウン マイ・デイ』(2025/映像)

市内小学生9名による稽古の様子・抜里地域交流センター
での公演映像。鉄道と人生と子どもたちの生が混ざり
合う。「それでも明日は来る」

8 清次のちゃべや



天地耕作(村上誠・村上渡)『天地耕作の記憶』(2026)

「天地耕作」が1980年代～2000年代
に活動した記録写真とパフォーマンス
映像を展開。土地に向き合い、土や石、
身体を通して、その場所に刻まれてきた時間の記録。

9 元鈴木邸



天地耕作(村上誠・村上渡)『森繁哉の言霊』(2026)

無人駅の芸術祭に3年にわたり参加し、天地耕作と交流
の深い舞踏家森繁哉のインタビューや書簡での言葉と抜里
でのパフォーマンス映像を展開。

10 しまの竹やぶ



天地耕作(村上誠・村上渡)『産土(うぶすな)』(2026)

旧社殿中央を掘り、地層をみて石と砂で墓壇に沿う壇を
つくり、木材にて構築物を設置。2年をかけてこの場所にて
制作を行う。

抜里の茶畑



11 東弘一郎『茶畑のサイクリスト』(2024)

防霜ファン越しに茶畑を一望し、自転車で風車を回す体験
を通じ鑑賞者自身が景観の一部に。作品が地元と訪問者の
対話や茶畑への愛着を生む。



12 小山真徳『てのひら』(2024)

大井川流域で出会った、譲り合いや手を振る人々のやさしい
手のひら。旅先での普遍的な情愛のサインとして、この土地
に手のひらを作る。



13 西田秀己『境界のあそび場II
/ ちゃばらのカーテン』(2021)

茶畑に漂う大きなカーテンと円形の縁側で休息の場を提供。
カーテン越しに世界の輪郭や細部がきらめき、訪れる
人々に新たな景観体験をもたらす。



14 TAKAGIKAORU『茶ノ木もぐり』(2025)

茶ノ木と志戸呂焼粘土でつくられた「茶ノ木もぐり」は
かつての茶畑での遊びからヒントを得て制作。

15 ちゃばらのギャラリー



鈴木一生『道具と使い方 2026 - 抜里編 -』(2026)

人は道具を通して自然と関わってきた。本作は「使うこと」
の原点に立ち返り、抜里のおじさん達と道具と使い方を
考え、新たな意味を探る試み。



16 河川敷 (抜里スポーツ広場)



小山真徳『盃と沢蟹』(2021/かに)

大井川流域のデイトラ坊伝説をもとに、
巨人の盃が河川敷に流れ着く光景を表現。制作は2か月、設置には抜里地区
の40名以上が協力。

SHINN UCHIDA『NUKURI HEROES』(2023/漫画)

「ヌクリハウス」の襖をキャンパスに、抜里の人々が登場する
ヒーロー漫画を制作。集落を脅かす「脅威」に NUKURI
HERO たちが立ち上がる。

ばいんばいん山 ART TRAIL



17 堀園実『風や水を切る』(2025)

琉球漆喰の柔らかい質感を通じ、彫刻
を生きた存在として体験。触れる・感じる
という身体性を通じ変化していく作品。

18 TAKAGIKAORU
『抜里の茶畑に色を咲かせる』(2025)

手入れされなくなった茶畑が森ようになる現状に、約40名
で「色」を咲かせ風景を変える時間を創出。

19 さとうりさ『本人』(2023)

寺山(通称ばいんばいん山)を180分の1スケールで再現
した触れる・座れる作品。山に触れ、風景を眺め、自分の
“現在地”を確認する。

20 西田秀己『境界のあそび場IV/音の要塞』(2023)

大井川流域の地域大井川流域では、古くから対岸との
物流、人の行き来、情報の交換のために様々な手段が工夫
されてきた。この要塞は、「交信」の努力をしてきた人々への
オマージュ。

21 戸張花『景色』(2026)

寺山山頂の森を映す鉄の円盤。鏡面に映る「管理された自然」
を錆が静かに侵食し、鉄本来の姿へ還す。人工物と自然
の境界の曖昧さを通じ、自然の循環の在り方を問いかける。

22 佐藤悠『なびねこ「茶々」の案内看板』(2026/看板)

ばいんばいん山アートトレイルを案内する猫「茶々」の看板。
緑と白のハチワレ姿を辿り、山のアイテムや見えない風景を
想像しながら楽しみながら巡る体験。

アートと過ごす、里山の時間

芸術祭だけの、お茶の休憩スポット ※週末限定 **茶** マークが目印

芸術祭の開催期間中だけ、抜里のお茶を自由に楽しめる「お茶飲み休憩
スポット」を特別に用意しました。急須でお茶を淹れ、歩いて疲れた身体をひ
と休み。作品鑑賞の合間に、集落の時間に身をゆだねてみてください。

【設置場所】天野邸 / ちゃばらのギャラリー / インフォメーションセンター (ヌクリハウス)

集落を見つめてきた、まなざしの集積

これまで大井川流域を舞台に生まれてきた作品を、あらためて編み直す「大井
川コレクション」。作家たちが集落で何を見つめ、何に心を留めてきたのか。
その視点をたどることで、いつもの風景が少し違って見えてきます。集落の奥
に積み重なった時間や気配に、静かに出会う展示です。

山を歩くと、アートに出会う

集落の背後に広がる里山を舞台にした「ばいんばいん山アートトレイル」。これ
までの作品に加え、新作も登場します。春の空気を感じながら、アートを道
しるべに山道を歩く時間は、この芸術祭ならではの体験。景色と作品を行き来
しながら、自分のペースで楽しんでください。



大井川芸術創生譚同時企画

みんなでつくる、 集落さんぽマップ

アートをきっかけに、
春の抜里を歩いてみよう。

大井川芸術創生譚の舞台は、
作品だけでなく、
里山の風景や
集落の時間そのもの。

このマップは、歩きながら
出会う発見を楽しむための
集落さんぽの
道しるべです。

大井川芸術創生譚同時企画

みんなでつくる、集落さんぽマップ

作品の場所が分かりにくいときは

右のQRコードからGoogleマップでご確認ください。
各作品の位置を現在地から確認できます。



大井川芸術創生譚 | 開催概要

会期 2026年2月14日(土) - 3月15日(日)

会場 静岡県島田市川根町抜里 各所(鑑賞無料)

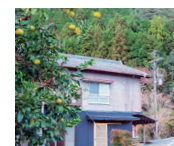
鑑賞時間 【屋内作品】 10:00~16:00

休館日 【屋内作品】 月曜・火曜・水曜(2/23祝は開館)

※ 屋外作品はいつでも鑑賞できます



芸術祭インフォメーションセンター



Atelier & Guest house ヌクリハウス

ヌクリハウスは、この芸術祭から生まれた宿泊施設。
人と人が出会い、語り合うアートと集落のハブとして開かれま
した。芸術祭をきっかけに、また抜里を訪れたくなった方も、
ぜひお立ち寄りください

静岡県島田市川根町抜里930

抜里駅徒歩10分 ※開館日は屋内作品開館に準じます



□ お問い合わせ・運営

芸術祭事務局 (NPO法人クロスメディアしまだ)

住所: 島田市日之出町4-1-1F [C-BASE] 内

Tel: 0547-39-3666

Mail: info.unmanned@gmail.com